

代表責任役員
矢野明玄

責任役員
矢野玄徳

責任役員
文三

総代
松本文次

総代
是久幸雄

総代
加藤傳蔵

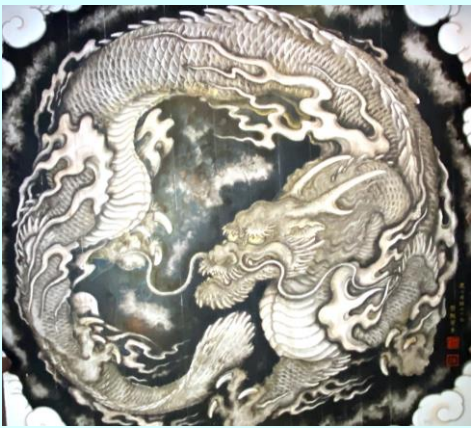
総代
麻生哲治

総代
古田忠夫

総代
須賀正廣

総代
河野晴生

合掌会会長
清未玲子



村上天心作 安住寺開山堂「天井龍図」

謹賀新年

檀信の皆様、当山に御縁をい
おたな話に
お世話を
恙なく新
慶び申し
本年は上
八支王と
言龍まが
千甲で辰
令和6年
の御縁は
大いに変
え、こと
と、霊獣
の守護を
守ることに
起す
縁起の
一に
祈り
おし
賜
ます
歳旦

【義援金のお知らせ】
令和5年度の義援金
災害義援金へ 200,000円
7月北部九州豪雨災害義援とし
日本赤十字社へ
(内賽銭181,028円)
これまでの義援金累計
2,235,602円(平成23年～)
(内お賽銭合計 1,510,399円)
(内東日本大震災分 1,043,708円)
(その他の義援金 1,191,894円)
安住寺では本堂・観音堂他に納めて頂いた、
お賽銭をすべて義援金として寄付しております。
沢山のご浄財を有難うございます。

第185号
令和6年 正月号
発行 安住寺
臨濟宗南禅寺派
〒873-0002
杵築市大字南杵築379
Tel 0978-62-2680
Fax 0978-62-3980
http://www.anjyuji.net
編集責任 矢野明玄

【月例行事】
★写経会★
午前10時～
1月23日(火)
2月22日(木)
3月22日(金)
★座禅会★
午前6時半～
1月12日(金)
1月27日(土)
2月3日(土)
2月17日(土)
3月2日(土)
3月23日(土)

【年回忌表のお知らせ】
本年の年回忌は、左記の通りで
す。本年にあたるご家庭には、お知
らせをしています。漏れがある
場合もございますので、ご確認
ください。
＊法要をご希望の場合は、早め
にご相談ください。
(お参りの人数、場所、お斎の
有無などお知らせ頂ければ助か
ります。)

年回忌	没年
一周忌	令和五年
三回忌	平成三十四年
七回忌	平成三十四年
十三回忌	平成三十四年
十七回忌	平成三十四年
二十五回忌	平成三十四年
三十三回忌	平成三十四年
五十回忌	昭和五十年

宮本武蔵が書いた『五輪書』水之巻には、「兵法の目付ということ」と題して次のようにあ
ります。
「目の付けやようは、大きく広く付くる」事として、「観」「見」の二つの見方を示す。
「観」は放心後の全体視、「見」は求心的な視線である。そして「観の目強く、見の目弱く、
遠き所を近く見、近い所を遠く見る事」が肝要であり、敵の太刀の位置を知っているが、少し
も敵の太刀にとらわれないことが、兵法では大事だと。
「観」とは辞書的な意味では、心静かに対象を観察し、真実を悟るということです。



現南将ねし

上の墨蹟「観自在」は南禅寺第十一代管長・塩沢大定老師の書かれた
もので、蒲江・梅南寺様の本堂に掛けられたものです。
經典中に、観自在菩薩・観世音菩薩と出てきますが、サンスクリツ
語のアヴァローキタイシヴラ ボーディーサットバを漢訳したもので
す。同じ語を、鳩摩羅什三蔵は『妙法蓮華經』中に「観世音」と翻訳し、
玄奘三蔵は『摩訶般若波羅蜜多心經』中に「観自在」と翻訳しました。
鳩摩羅什三蔵は「観察された(アヴァローキタイ)」と一音・声
(シユヴラ)で、悩める世間の人々の音声を観ずるものという意味で
シユヴラ)の合成語で、衆生の苦悩を観すること自在なるものと解釈
し「観自在」と漢訳しました。衆生の苦悩を観すること自在なるものと解釈
「観世音菩薩」というのは、『観音經』に、
「無量百千万億の人々が、どの様な苦悩を受けていても、もし観世音菩
薩の名を聞いて一心に称えるならば、菩薩はただちに、その声を観じて
苦しみから解き放ちます。
「南無観世音菩薩」の名号を通して祈るならば、菩薩の威神力によつ
て、たとえ大火のなかにあつても焼かれることなく救い込まれます。川
で大水に流されるようなときでも、浅瀬にたどりつくでしょう」と説か
れています。
観世音というのは、慈悲の心にて救いを求める世の人々の声を観察し
て、救済するという意味です。
観自在というのは、その観察することが自在であることを表していま
す。「観世音」「観自在」いずれにしても「観」という字がついてい
て、それは慈悲の心にて観察するということです。
この観察こそが観世音、観自在の本質です。
薬師寺・加藤朝胤管主は観世音、観自在を次のようにたとえていま
す。
例えば泥沼に墜ちて助けを求めている人がいました。今にも溺れそう
になっている人を助ける為に、岸から手を伸ばし、声を掛けて励まし、
泥沼に入り、力を信じて引き上げる人、泥沼に墜ちている人を助ける為に、自
ら泥沼に入り、今にも溺れそうになっている人を助ける為に、自ら
も同じ菩薩の善行です。
梅南寺様の本堂に「観世音」ではなく「観自在」の墨蹟が掛けられたのは、深い願いが込め
られていたのではないかと感じたところです。

【合掌会活動・奉仕作業】
12月8日(金)少し肌寒い日になりましたが、清末会長始め合掌
会執行部並びに地区役員30名の参加を頂き奉仕作業が行われ
ました。
大勢での作業で一時間半で諸堂が綺麗になりました。ありがと
うございました。
江戸時代の狂歌師・大田蜀山人(南畝)の歌に『雑巾を当て字で
書けば蔵と金あちら福福(拭く拭く)こちら福福』というのがあり
ます。年末皆さんも大掃除大変だったことと思います。福福(拭
く拭く)福福(拭く拭く)キレイになって福が来ますように。



昨年12月9日 座禅会納会様子 一寸座れば一寸の仏

◆十月一日・貴布祢神社秋の
大祭に出席。 ◆十月四日・南
禅寺派部内会にて本山団参最終
打ち合わせ。 ◆十月十二日・
縁あつて重光葵一統の墓地改葬
供養をお務めました。市内中
平に大変立派な墓所があり驚い
たところ。孫の方がお守りをし
らる。お墓のご相談が多いで
す。重光一統の墓所のように
規模が大きいとお世話も大変だ
と感じました。 ◆十月十七
日・大分市古国府、仏光寺前寺
庭様の葬儀。閑栖和尚和尚の導
師。 ◆十月二十二、二十六
日・大分県南禅寺派二十四部本
山団参に参加。本山灯明会で参
加者の懺悔のことに感動しまし
た。 ◆十一月五日・三回目
のお寺でコンサートを開催。沢
山の方に鑑賞いただけました。
◆十一月六・七日、第十部
(安来市)御詠歌研修、閑栖和
尚和尚出向 ◆十一月十三日・
尚和尚より総務省による消防設備
の点検基準が厳しくなり、火災
報知器・消火器などの点検を受
けました。全てのお堂に設備が
ありますが、火燭用心は専らで
す。 ◆十一月三十日・南禅寺
派部内研修会。来年度前半の行
事予定を確認。春の巡教お説教
の予定は、四月二十三日に決ま
りました。詳細は寺報春号にて
お知らせ。 ◆十二月五日・蒲
江梅南寺様の前住職前寺庭様の
一周忌のお務めに上がりました。
◆大晦日は除夜の鐘を撞
きに御見えください。